

# 2025年12月：特許出願「82,188件」の衝撃 — 生成AIが招いた知財パラダイムシフト

生成AIの「絨毯爆撃」と制度変更による、前例のない出願急増と知財業界の構造的変化

## 異常急増の背景：生成AIと制度的要因



### 生成AIによる「絨毯爆撃」戦略

ソフトバンク等が生成AIで明細書を自動生産し、特許領域の権利空間を制圧。



### 2026年1月の料金改定による駆け込み

PCT国際出願手数料等の値上げを回避するため、12月末に案件が集中した。



## 知財の未来：AI vs AIの新時代と専門家の変容



知財DX：明細書作成から評価までAIが自動化  
RAG採得や「仮態器査言」AIにより、高品質な明細書の大集生産が可能に。



審査の「AI vs AI」パラダイムの到来  
出願人の自動生成AIに対し、特許庁もAI調査ツールで対抗する機関が定着。



弁理士は「知財経営コンサルタント」へ  
単なる審判代行から、AIにはない線控や戦略を提案する役割へとシフト。